

② 地域における体力づくりと生涯にわたる  
健康学習に関する研究

# 「地域における体力づくりと生涯にわたる健康学習に関する研究」 2011 年度報告

今西幸蔵、水谷 勇

本研究の2年目にあたる平成23年度の本チームの活動内容と研究成果についての報告をする。

健康に関わる問題は家庭教育だけでなく、学校教育にも深い関係があり、また成人も含めた問題として取り上げられなければならない、家庭はもちろんのこと、学校や地域社会においても健康や環境の問題を取り上げ、地域における体力づくりと生涯にわたる健康学習のシステムを構築しようとするのが本研究の趣旨と目的である。

こうした目的に沿って、平成23年度においては次の4項目の活動方針を設けた。

1. 健康学習に関わる資料の収集
2. 研究チームの編成
3. 健康と学習に関わる調査のための用紙の作成
4. 調査研究フォーラムの実施

上記の4項目についての研究活動の内容と成果について、以下に記すことにする。

## 1. 健康学習に関わる資料の収集

健康学習についての先行研究としては、国立教育政策研究所が実施した研究がある。

同研究所においては、以下に示すような内容の研究が実施された。(1) 国民の体力低下の要因分析と健康教育に関する体系的な研究のプレビュー、(2) 生涯にわたる健康教育と子どもの体力向上に関する実証的研究、(3) 実践的な健康教育プログラムの研究である。

本研究を進めるに当たって、平成22年度末に同研究所が成果報告書として刊行した『健康教育への招待』(国立教育政策研究所、平成20年)を本研究予算で購入し、関係するメンバーに配布した。ここでは特にアンケート調査の結果に着目し、この資料の分析にあった。また4で示すことになるが、平成23年3月には同研究所の研究チーム代表である立田慶裕統括研究員からの報告と示唆を得る機会を設定し、報告書の内容の理解を深めた。

また平成23年7月28日と28日の両日に渡って、本大学の人文学部院生(博士課程1名、修士課程1名の2名)を引率し、国立教育政策研究所(千代田区)と国立社会教育実践研究センター(通称;国社研、台東区)を訪問し、関係資料の収集に努めた。この調査時においては、国立教育政策研究所統括研究員の立田慶裕氏と国社研の文部科学省職員の鳥越留美子氏のお世話になり、多くの情報を提供していただいた。

一方、予定していた福岡県立社会教育総合センターにおける文献調査及び福岡県糟屋郡久山町における現地調査が時間と予算のために実施できなかった。久山町については「献体率100%のまち」として全国的に知られている自治体であり、現在も九州大学医学部をはじめとする関係医療機関が同町民の健康についての調査研究を実施しており、さまざまな知見を提供しているため、本研究の遂行にあたって是非とも調査研究を希望する自治体である。

次の2でも関連事項として説明するが、明石・有瀬地域の学校園の健康教育推進組織の一つである神戸市立有瀬小学校での健康教育の実践報告を受けることになったが、同小学校では「ありせ健康会議(学校保健委

員会)」が中心となってさまざまな健康学習・教育の活動をしていることを知った。毎年テーマを決めて研究発表会を開催しており、平成 23 年度においては「バランス バッチリ! もぐもぐ もりもり」をテーマとして、平成 24 年 1 月 27 日に「第 29 回 ありせ健康会議」が開催されている。あいにく当日は大学での授業のために欠席したが、提供された資料によると、①保健委員会の取り組みの発表、②給食委員会の取り組みの発表、③各学年（5 年生、4 年生、6 年生の順に）の取り組みの発表、④意見交換などのプログラムが実施されている。保健委員会が作成した「クイズラリー」などの遊びも交えた学習活動に注目した。身近な学習教材として有効な資料として生かせると思うのである。

以上のような活動によって資料収集を行い、本研究に関わる基礎的な知識理解に努めた。

## 2. 研究チームの編成

平成 23 年度においては研究チームづくりが時期尚早だという判断から、本研究を遂行していく上でのキーとなる地域住民や学校との関係づくりに取り組んだ。大学周辺の地域住民（小学生、中学生、高校生や成人）を対象とした健康教育と体力向上に関する実証的研究を予定しているためであり、近隣の小学校、中学校及び高等学校との連携・協力を必要とするための働きかけを行った。

明石及び有瀬地区の学校園には、子どもたちや保護者の健康を考えようとする機運が高いことは予想以上であったが、本研究活動の推進に有利な客観情勢があることを知った。つまり大学周辺にある神戸市立有瀬小学校、同市立伊川谷小学校、同市立長坂小学校、同市立長坂中学校、同市立伊川谷中学校の 5 校で健康教育推進組織が構成されていることであり、この組織との連携を希望するとともに、研究チームのメンバーとしてお願いすることを希望するようになった。さらに同組織と兵庫県立伊川谷高等学校との連携が模索されているということも知った。

こうした地域の事情から、研究チームの発足（平成 24 年 10 月予定）にあたっては上記 5 校と伊川谷高等学校の関係教員、加えて認定産業医・健康スポーツ医、本校教員 3 名）の計 10 名からなるメンバーで臨むことにした。

## 3. 健康と学習に関わる調査のための用紙の作成

平成 23 年度は健康学習に関わる調査用紙の原案の作成と内容の検討を行った。

- ①実施対象 小学生 200 人、中学生 100 人、高等学校生 100 人及び各校種の保護者 300 人
- ②実施年月 平成 24 年 8 月～ 10 月
- ③調査項目 行動面：健康（日常生活習慣、就寝と起床、食事）運動（運動時間、運動内容）、  
内 面：学校生活満足度、自立性、自己意識、健康意識、運動意識
- ④調査方法 各校における留め置き法

次ページ以降の資料が調査用紙（案）である。平成 24 年度には本調査用紙を用いた調査を実施し、集計することになる。さらに本学人文学部学生の意見を取り入れた調査も同時に行う。学生主体の調査は、心と体の健康の実現は「遊び」と「生活改善」からという視点で作成され、学生の体験的な健康観から設問が作られることが期待されている。

子どもの体力向上に関する生活実態調査  
子ども用調査票

学校名 ( )  
( )年 ( )組 ( )番 男・女  
氏名 ( )

問1 いっしょに住んでいる家族すべてに○をつけてください。(兄弟姉妹は、その人数を書いてください)

- 1 お父さん      2 お母さん      3 おじいさん      4 おばあさん  
5 お兄さん ( )人      6 お姉さん ( )人      7 弟 ( )人  
8 妹 ( )人      9 その他の家族

問2 十分な時間たっぷり、体を動かす遊びや運動・スポーツをすることが、できていますか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 1 できている      2 ややできている      3 どちらともいえない  
4 あまりできていない      5 まったくできていない

問3 体を動かす遊びや運動・スポーツをしたい所で、のびのびと体を動かす遊びや運動・スポーツをすることが、できていますか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 1 できている      2 ややできている      3 どちらともいえない  
4 あまりできていない      5 まったくできていない

問4 いっしょに体を動かす遊びや運動・スポーツをしたいと思った人と、なかよく体を動かす遊びや運動・スポーツをすることが、できていますか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 1 ある      2 ない

→ 「1 ある」と答えた人は、何回くらいあったか ( ) 中に回数を書いてください。 ( ) 回

問5 この1年間の間に、地域で行われた運動・スポーツの行事・イベントに参加したことがありますか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。\*学校の行事はのぞきます。

- 1 ある      2 ない

→ 「1 ある」と答えた人は、何回くらいあったか ( ) 中に回数を書いてください。 ( ) 回

問7 この1年間の間に、家族や友だちと、海、山、川、湖、池、森などで体を動かす遊びや運動・スポーツをしたことがありますか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 1 ある      2 ない

→ 「1 ある」と答えた人は、何回くらいあったか ( ) 中に回数を書いてください。 ( ) 回

問 8 次のようなことは、どのように感じていますか。

	かなり そう思う	そう思う	やや そう思う	あまり そう 思わない	まったく そう 思わない
1) いろいろなことを進んで学びたい	5	4	3	2	1
2) いろいろなことに興味を持って勉強したい	5	4	3	2	1
3) 自分がやりたいと思うので学習し、活動する	5	4	3	2	1
4) 自分から学び、活動する気になる	5	4	3	2	1
5) 難しい課題でも、やれるところまではやってみる	5	4	3	2	1
6) 困難な課題でも、解決の方法を自分で探す	5	4	3	2	1
7) 知りたいことが分かるので学習する	5	4	3	2	1
8) 楽しいので学習や活動に取り組んでいる	5	4	3	2	1
9) ハードな動きをする課題が好きだ	5	4	3	2	1
10) できるとうれしいので、難しい課題が好きだ	5	4	3	2	1

問 9 次のようなことは、どのように感じていますか。

	かなり そう思う	そう思う	やや そう思う	あまり そう 思わない	まったく そう 思わない
1) もっと、運動・スポーツをしたい	5	4	3	2	1
2) もっと、運動・スポーツを見たい	5	4	3	2	1
3) もっと、運動・スポーツを応援したい	5	4	3	2	1
4) もっと、体力をつけたい	5	4	3	2	1
5) もっと、上手になりたい	5	4	3	2	1
6) もっと、楽しんでやりたい	5	4	3	2	1
7) もっと、屋外で遊びたい	5	4	3	2	1
8) もっと、屋内で遊びたい	5	4	3	2	1

問 10 次のようなことは、どのように感じていますか。

	かなり そう思う	そう思う	やや そう思う	あまり そう 思わない	まったく そう 思わない
1) おとなになったらなりたいものがある	5	4	3	2	1
2) 「やればできる」と思う	5	4	3	2	1
3) わたしはなにをやってもうまくいかない	5	4	3	2	1
4) わたしはみんなとなかよくできない	5	4	3	2	1
5) 急におこったり、泣いたり、うれしくなったりする	5	4	3	2	1
6) わたしはおこりっぽい	5	4	3	2	1
7) よくあたまがいたくなる	5	4	3	2	1

#### 4. 調査研究フォーラムの実施

前述したように、本研究の先行研究である国立教育政策研究所の研究成果を研究チームが共通認識する必要があることから、平成 24 年 3 月 27 日に神戸市垂水区のシーサイドホテル舞子ビラにて研究フォーラムを開催し、大学周辺の学校園の教員など 10 名が参加した。

この研究フォーラムでは、国立教育政策研究所統括研究員の立田慶裕氏をお招きし講義をいただいた。地域健康学習の意義と役割についての理解が進展したように思われる。

以上でもって平成 23 年度の研究成果の報告としたい。